

No. 1015

石とダンプの町

—栃木—

栃木県安蘇郡葛生町、人口1万7千人。その8割の人々が石とかかわりあって生きているという石の町である。家並はほこりにまみれ、ダンプが騒音をふりまいて走りぬける。山肌は採石業者の手でむきだしにはぎとられ、無惨な姿をさらけ出している。人々は騒音とほこりの中でじっと耐えて生きているように見える。しかし、不思議なことに、公害に充ちみちたこの町に公害反対運動が起ったという話しは聞かない。

住民は「皆んな石場で働いているから、ダンプをとめたり、石きり場やめたら、まんまのくいあげだ」「他人の山だから、なくなったってしょうがない」とあきらめの態。

町役場の助役さんは「よそからきた人はたいへんな町だともうかもしれませんが、住んでいる人は特別な病気もないし——」と対策に苦慮している様子はない。繁栄日本のおこぼれを受けて、市民と業者が奇妙な融和を見せているこの町、埋蔵する石の量は今のテンポで掘り続けてもあと100年はあるという。今日も、繁栄のしるしハッパの音が町中にひびきわたっている。

都議選スタート

70年代後半の政治を左右するとして注目される東京都議会議員選挙は6月25日、告示された。

125の定数に対し、223人が立候補競争率1.78倍の少数激戦。各党、党首は街頭で第一声、しかし自民党の田中総裁は街頭に出ず、同党本部で行なわれた出陣式で必勝を呼びかけた。

自民党にとって怖い相手、共産党は宮本委員長も先頭に立ち自民党批判。副都心新宿では自民・共産両党の宣伝カーがぶつかりあい、*自共対決、は白熱した。

今回の都議選は*政治決戦、として各党とも挙党体制で取り組んでいることから、都議選史上かつてない選挙戦となった。